

幅広いトピックの講演とディスカッション 日本インプラント臨床研究会&日本歯科先端技術研究所

日時：平成25年11月24日(日)
場所：東京コンベンションホール



甲斐 智之 (兵庫県)

平成25年11月24日(日)に東京コンベンションホールにて、日本先端歯科技術研究所と日本インプラント臨床研究会の第3回合同研修会が開催されました。

井汲会長、築瀬先生の開会の挨拶後、日本インプラント臨床研究会からは、佐久間栄氏先生(東京都開業)、芦澤仁先生(東京都開業)、大八木孝昌先生(神奈川県開業)そして私、甲斐智之(兵庫県開業)が発表。

また、日本歯科先端技術研究所からは、山田晴樹先生(神奈川県開業)、江黒徹先生(埼玉県開業)、宝崎岳彦先生(神奈川県開業)、竹島明道先生(東京都開業)が発表されました。

講演内容は、オールジルコニアの上部構造を用いたインプラント修復、ソフトティッシュマネジメン

ト、咬合再構成における顎偏位改善とアンテリアガイダンス、咬合再構成と顎関節、インプラント周囲炎に対するa-PDTの応用、自家歯牙移植、がん患者とインプラント治療など、幅広いトピックの講演と



なった。

外来講師として、吉成正雄氏（東歯大教授）が「超親水チタンインプラントは有用か？」と題し、インプラント表面の親水化は必ずしも臨床的有用性が確立されていないが、現段階で分かっているオッセオインテグレーション及び軟組織接着への増進及び、新たに開発中である表面性状の今後を講演された。

黒田昌彦先生（東京都開業）は「患者さんの願いは[歯を救って長持ちさせること]」と題し、長期経過観察の重要性を色々な角度から解説されました。

長期観察ができているということは、患者様が満足して通院している証拠であり、そのような臨床を大事にして行きたいとする強いメッセージを伝えられた。

また、最後には、壇上にてすべての演者によるディスカッションが行われ、本研修会を締めくくった。



